教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音　楽（器楽）

発行者	総合的な所見
教　出	**（ア）第１の観点　基礎・基本の定着** ①教材曲ごとに、曲名の下に学習のポイントを示している。 ②各楽器の各部の名称、姿勢とかまえ方、奏法等を写真や図で示している。三味線の三線譜や箏の数字譜を取り入れている。楽曲数が多く、多彩な曲に触れることができるようになっている。 **（イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫** ①各楽器の「Let's Play」「Let's Try」で楽曲を演奏し、それぞれの楽器を使った創作活動へとつながっている。 ②各楽器の学習の最初に、楽器の歴史や特徴、用いられるジャンル等の記述がある。また、各楽器の演奏者からのメッセージが記載されている。 **（ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量** １ リコーダー　２ 篠笛　３ 尺八　４ ギター　５ 箏 ６ 三味線　７ 太鼓　８ アンサンブル曲集「Let's Play！」「Let' s Try！」　９ 名曲旋律集　１０ 資料 で構成されている。 **（エ）第４の観点　内容の表現・表記** ①「合わせて演奏しよう」で取り上げている曲について、曲名の下に、音楽を形づくっている要素についての指導の工夫を示している。 **（オ）第５の観点　言語活動の充実** ①「速度や強弱等は、グループで話し合って確認しておきましょう。」「グループごとに発表してみよう。」と示し、表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定をしている。

発行者	総合的な所見
教　芸	**（ア）第１の観点** ①冒頭の「アンサンブルセミナー」では３曲を取り上げており、教材ごとに、曲名の左横に学習目標を提示している。曲名の下には、学習活動を示している。また、「アンサンブル」では、曲名の右に学習目標が掲載されている。 ②各楽器の構造や種類、姿勢と構え方、奏法等を写真や図で示すと共に、「和楽器こぼれ話」「演奏を聴こう」「楽器を知ろう」のコーナーを設けている。箏と三味線では、五線譜に加え、一般的によく用いられる奏法譜（箏は家庭式縦譜・三味線は文化譜）を併記し、読み方を詳しく説明している。また、楽曲数が多く、多彩な曲に触れることができるようになっている。 **（イ）第２の観点　主体的に学習に取り組む工夫** ①箏の基本的な奏法から、楽曲の練習、さまざまな奏法を学習し、箏を使った創作活動へとつながっている。 ②各楽器の学習の最初に、「楽器を知ろう」があり、楽器の歴史や楽器の用いられるジャンル、庶民との関わりなどの記述がある。また、和楽器の学習では、それぞれの楽器の演奏者からのメッセージが記載されている。 **（ウ）第３の観点　内容の構成・配列・分量** １ アンサンブルセミナー　２ リコーダー　３ ギター　４ 箏 ５ 三味線　６ 太鼓　７ 篠笛　８ 尺八　９ 打楽器 １０ アンサンブル曲集　１１ 楽器で Melody １２ 資料で構成されている。 **（エ）第４の観点　内容の表現・表記** ①目次の次のページに主要教材において音楽を形づくっている要素との関連について示すとともに、「アンサンブルセミナー」「アンサンブル」で取り上げている曲については、曲名の横に音楽を形づくっている要素について指導の工夫が示されている。 **（オ）第５の観点　言語活動の充実** ①「友達と話し合いながら曲全体のアーティキュレーションを決め、２つのパートに分かれて演奏しましょう。」と示し、表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定をしている。